

福井市下水道事業経営戦略（素案）【概要版】

第1章 経営戦略のあり方

- 福井市では、汚水処理の未普及地区解消に向けて公共下水道施設の整備を進めるとともに、増加する老朽化施設の計画的な改築・更新が必要となっています。
一方、下水道使用料収入の減少や企業債償還の増加など厳しい財政状況が見込まれる中、安定的な下水道サービスの提供を持続する必要があります。
こうした中、将来にわたって、投資と財源を均衡させた経営戦略の策定を行います。
- 経営戦略は、「第七次福井市総合計画」およびその「実施計画」を鑑みながら策定し、経営戦略の内容を各種計画等に反映させます。
- 計画期間は、平成29年度から平成38年度の10年間とします。

第2章 福井市の下水道事業

- 下水道事業経営戦略の対象範囲は公共下水道とします。
(集落排水等や浄化槽を含めません)
- 公共下水道の役割は、汚水の排除（生活環境の改善）、雨水の排除（浸水から守る）、公共用水域の水質保全（汚水の浄化）の3つです。

第3章 下水道事業の現状と課題

- 汚水処理人口普及率の推移・・・94.1%（平成27年度末現在）
(公共下水道85.0%・集落排水5.5%・浄化槽3.6%の合計)
- 公共下水道(管渠)・・・・・・整備面積進捗率80.8%、整備人口進捗率94.0%
(平成27年度末現在)
- 雨水対策・・・・・・雨水対策事業を行っているが、未だ浸水被害が発生している。
- 施設の老朽化・・・・・・下水道整備の事業着手以来、70年近くが経過し管渠、ポンプ場、処理場について、老朽化が進行しているものがある。
- 経営状況・・・・・・人口減少や節水型社会の影響で使用料収入の減少が続いている。
使用料金は県内他市町や類似都市と比較して安い。
起債の償還額は年々増加傾向にある。
- 経営指標・・・・・・現在の経営状態は比較的良好。
汚水処理原価は類似都市と比較して安い。
類似都市と比較して施設の老朽化が進んでいる。

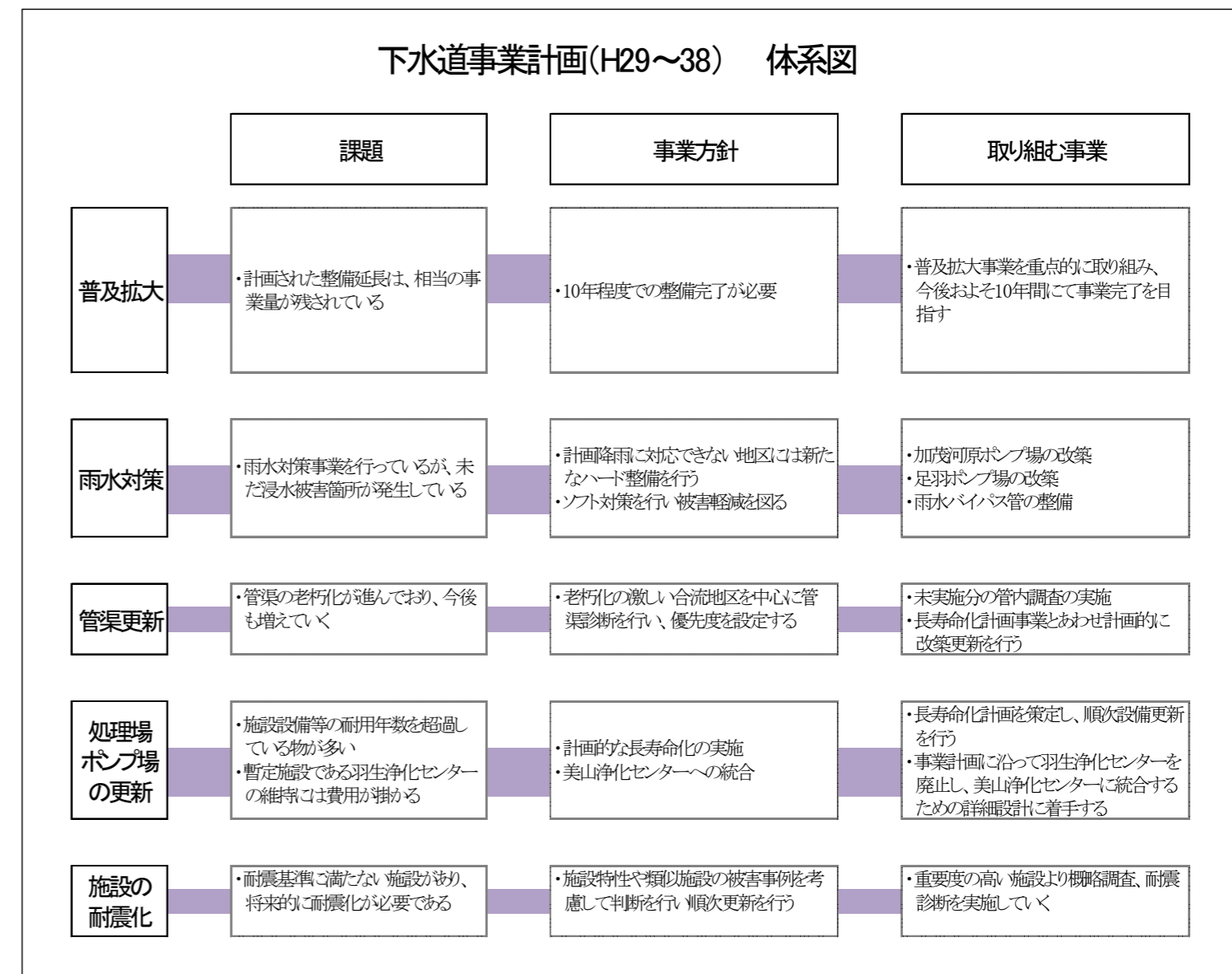
第4章 基本方針

「市民への安全・安心な下水道サービスを将来にわたって、安定的・効率的に提供する」ことを経営戦略の基本方針とします。

第5章 下水道事業計画

事業全体の方針

今後10年間程度は、未普及解消に向け、普及拡大事業を重点的に取り組みます。
その後は、下水道事業全体のバランスを考慮し、改築更新事業や耐震化事業に本格的に取り組んでいきます。



第6章 経営基盤強化の取り組み

事業の効率化や組織の活性化・人材育成、収入の確保を図ります。
また、市民の方々の深い理解と協力を得るために情報公開や各種広報活動等を通じて「下水道事業の見える化」を推進します。

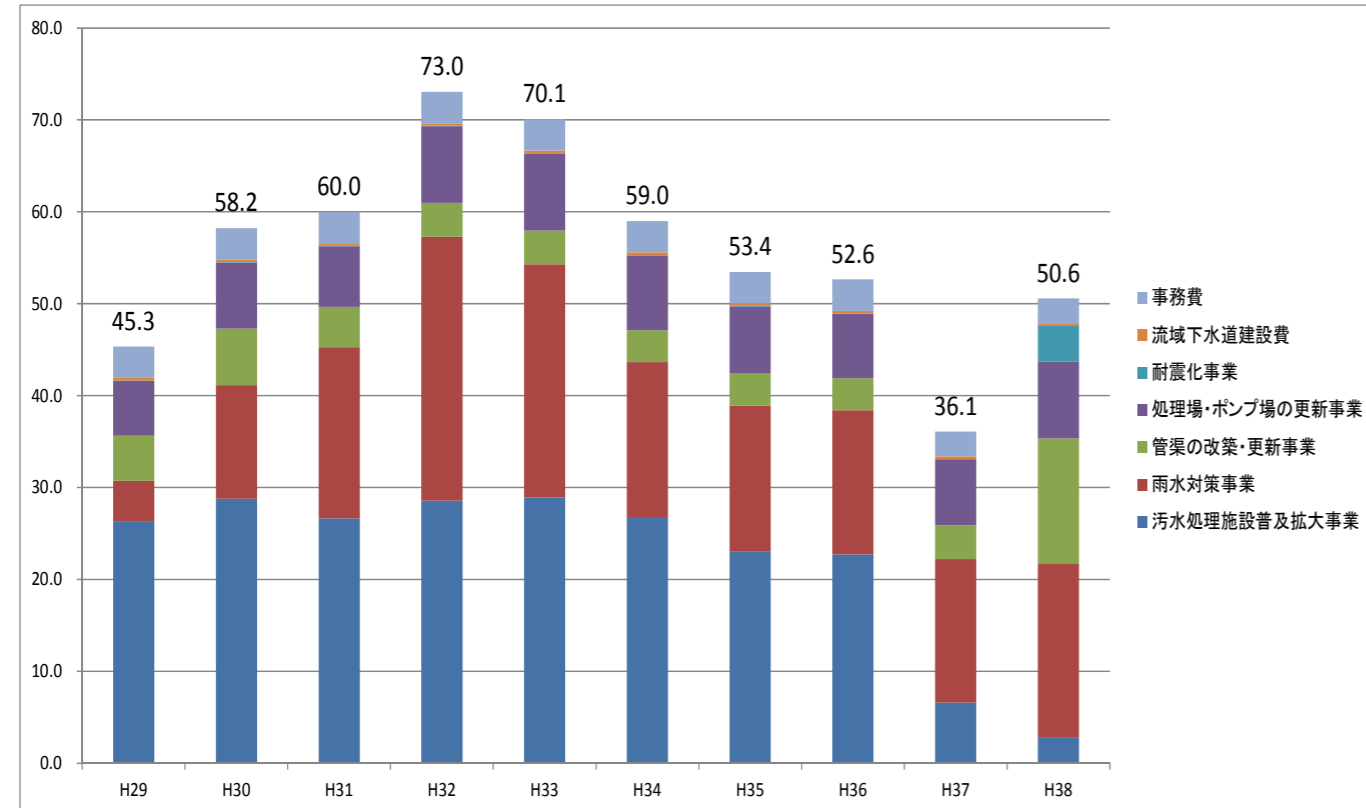
第7章 今後の経営状況試算

投資額の見通し

10年間の投資額 約558億円

・普及拡大事業	221.1億円	・雨水対策事業	172.5億円
・管渠更新事業	50.6億円	・処理場・ポンプ場更新	74.5億円
・耐震化事業	4.3億円	・流域下水道建設費	2.8億円
・事務費	32.6億円		

(単位:億円)



財政シミュレーション(自己資金残高の見通し)

自己資金の残高

【自己資金の残高の推移】

(単位:億円)

資金残高	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
	30.3	28.8	24.7	19.1	11.5	2.8	▲7.7	▲20.1	▲34.3	▲50.7	▲67.3

平成30年度と35年度に20%ずつの割合で使用料収入を見直したと仮定した場合

※使用料を見直す場合は『福井市下水道使用料制度審議会』にて改定率や時期を審議・決定

【自己資金の残高の推移】

(単位:億円)

資金残高	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
	30.3	28.8	31.6	32.8	31.9	29.9	26.2	28.4	28.7	26.6	24.2

経営戦略の進捗管理

経営戦略を有効に活用するためには、経営戦略に基づく取組の結果を分析し、進捗管理や事業見直し等に反映させることが重要となります。

PDCAのサイクルを活用しながら、適宜計画の見直しを行っていきます。